

# 家庭、技術・家庭

## 生活や社会の変化に主体的に対応する資質・能力を育成する授業づくり

### 授業づくりのポイント

※数字は題材構成の例と対応

- ① 児童生徒の身近な生活との関わりや社会とのつながりを重視して題材を設定する。また、各指導事項の関連を図りながら、系統的・総合的に学習を展開できるよう題材の構成を工夫するとともに、実践的・体験的な学習過程を意識する。
- ② 問題解決能力を育成するために、技術分野、家庭科、家庭分野における一連の学習過程を踏まえて題材を構成する。また、ICTを効果的に活用するなど学習過程の各段階の充実を図る。
- ③ 児童生徒が生活や社会の中から問題を見だし、主体的に取り組むことができるように、家庭や地域等での実践、生活や社会における技術と結び付けながら学習課題を設定する。
- ④ 題材を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にするとともに、技術の見方・考え方、生活の営みに係る見方・考え方を働かせた児童生徒の姿を想定し、授業においてその姿を見取り、価値付けする。

### 家庭科、家庭分野の一連の学習過程を踏まえた題材構成の例

小学校第5学年 題材名「おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁」(全10時間)

指導内容B 指導事項 (1) 食事の役割 (2) 調理の基礎

#### 題材の目標

- (1) 食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳の仕方、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見だし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

#### 一連の学習過程(参考例)

<p><b>生活の課題発見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験や学習したこと等を基に、生活を見つめる。</li> <li>生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する。</li> </ul>
<p><b>解決方法の検討と計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定した課題を解決できるよう、知識及び技能を習得する。</li> <li>習得した知識及び技能を活用し、解決に向けて計画を立て、見直しをもつ。</li> </ul>
<p><b>課題解決に向けた実践活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調理、製作等の実習や、調査、交流活動など、立てた計画に沿って実践する。</li> </ul>
<p><b>実践活動の評価・改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践した実習や調査、交流活動などを振り返る。</li> <li>各自振り返ったことをグループ等で発表し合い、改善策を考える。</li> </ul>
<p><b>家庭・地域での実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を解決する力と実践的な態度を養うため、考えた改善策を家庭や地域で実践する。</li> </ul>

#### 題材計画

時	学習活動
小題材：自分の食事をみつめよう	
1	日常の食事を振り返り、食事の役割について話し合い、米飯とみそ汁のよさについて考える。
小題材：おいしいごはんとみそ汁を作ろう	
2	米飯A、B(水加減が異なるもの)とみそ汁C、D(だしの有無)を試食し、気付いたことを発表する。
3	グループで鍋を用いての炊飯後、試食する。
4	みそ汁の実に使う材料の切り方や入れ方、だしのとり方を確認し、ペアでみそ汁を調理する。
小題材：家族と食べるおいしいごはんとオリジナルみそ汁を作ろう	
7	オリジナルみそ汁に使う材料の分量、実の組み合わせや切り方、調理手順を考え、調理計画を立てる。
8	オリジナルみそ汁の調理(家庭での実践に向けての試し作り)をする。
9	調理実習を振り返り、グループで改善点を確認し、調理計画を改善する。
10	調理実習を振り返り、グループで改善点を確認し、調理計画を改善する。

#### 生活の課題発見【課題設定の場面】

T: ごはんとみそ汁の食べ比べをしてみても、どのようなことに気付きましたか。

S1: ごはんの硬さ、みそ汁の味や香りが違いました。

S2: おいしく感じたのは、Cのみそ汁ですが、家のみそ汁より、香りを強く感じました。

T: どうして違いがでるのでしょうか。

S1: AとB、CとDは同じお米やみそを使っているのに味や香りに差がでるのは、作り方が違うからだと思います。

T: なるほど。それでは、おいしいごはんとみそ汁の作り方を探ってみましょう。

生活経験や既習事項と関連付けたり、体験的な活動を取り入れたりして、解決すべき課題を設定することができるようにします。③

#### 実践活動の評価・改善【改善の場面】

T: 家族のためにみそ汁を作るときには、前時の実習のどのような点を改善したいと思いましたか。

S1: 栄養のバランスや家族の好みを考えてわかめを追加したいです。また、大根が軟らかくなるまで煮るように手順を工夫したいです。

S2: より風味を出すために、だしを煮干しではなく、昆布とかつお節を使ってとりたいです。

T: 改善点が見付かりましたね。自分の調理計画のデータファイルを開いて調理の手順を工夫したり、実の種類を変えたりして、見直しましょう。

ICTを活用することで、思考を可視化したり、全体で考えを共有したりすることが考えられます。また、活動の様子をICT端末で撮影し、評価・改善に活用することも考えられます。②

一連の学習過程を通して児童生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようになります。小学校は2年間、中学校は3年間を見通して、学習過程を工夫した題材を計画的に配列することが、問題解決能力の育成につながります。①②